

日韓聖公会青年セミナー共同声明

2006年8月11日～16日、山梨県河口湖畔に集まった私たち「日韓聖公会青年セミナー」の参加者は、「日韓聖公会の宣教課題と東アジアの平和」のテーマのもと、「聖公会の神学・宣教と公共性」という主題講演、青年による6つの発題、靖国神社などへのフィールドトリップ、また数々のレクチャーなどの学びと交流の時をもった。

これらを通して互いの現状を認識し、両国間における友好と平和に関して、イエス・キリストの愛を実践するクリスチャンとして行動しなければならないという共通の理解を得た。私たちは、すべての抑圧、差別、暴力と、疎外として現れる非倫理的、非人間的な現象に反対する。特に、私たち聖公会青年は、青年イエスの足跡に従う弟子として私たちの究極的な目的である平和を守る神様と共に、一つの心で生きることを決意する。

そして私たちは両国間だけでなく、世界の平和について考え、行動していくために、今後も日韓青年の交流の「場」が維持されることを希望する。その上で、以下について決議した。

1、私たちは教会内の青年活動の活性化と財政支援の必要性を認識し、これを増進させるための多様な青年活動の可能性を模索する。

2、私たちは、両国を取り巻く諸課題についての認識不足を認め、互いを理解して東アジアの平和に向けて努力し、持続的な交流を行ってこくために多様なネットワークを活用する。

3、私たちは、少数者の人権が無視されてきた過去を反省して、これからは、人種と国籍を問わず、個人の人権が尊重される社会の形成に尽力する。

4、私たちは、差別と暴力によって引き起こされた社会的課題にこれ以上沈黙しない。よって、日韓青年たちは社会的課題に深い関心をもって問題解決のために努める。

5、平和を実現するためには武器や武力の放棄が唯一の方法であり、戦力の不保持を宣言する日本国憲法第9条はその具体的な方策である。よって平和を求める私たちは、平和の実現の妨げとなり得る、憲法第9条改定に断固反対する。

6、私たちは、8月15日に日本の小泉純一郎首相が靖国神社に公式参拝したことに厳重に抗議する。

2006年8月16日

「日韓聖公会青年セミナー」参加者一同

神戸
2006
広島平和礼拝

昨年(他)は教区礼拝+青年交流会のピースビジュアルという形で行われた広島平和礼拝ですが、今年は八月五日～六日に、教区宣教会を中心とした実行委員会が結成され、準備・運営が行われました。青年会からは田口望・藤原清隆両名、また私がユースコーディネーターとして準備段階から参加しました。内容的には谷主教様の聖書研究を受けてのバイブルシェアリング、カトリックの企画(平和行進・平和記念ミサ)への参加、平和祈念聖餐式などを中心に行いました。多くの青年が集まった昨年に比べると

と(他の行事との兼ね合いもあり)、青年層の参加が非常に少なかったのですが、参加したメンバーからは「来年もぜひ!」という意見が多く寄せられました。青年交流会として来降このイベントにどのように関わっていくかは未定ですが、何らかの協力をしていく必要があると思います。

広島平和礼拝の様子
子は広島復活教会のHPからごらんになります。
さこ田直文(神戸聖ヨハネ教会/教区YC)

徳島の夏は
終わらない

八月十五日から十八日まで、徳島の富岡キリスト教会を会場に青年交流会ワークショップを行いました。

した。一日目は徳島インマヌエル教会に集合し、阿波踊りに参加しました。町じゅうの人が時間になるのをワクワクしながら待っている夕方の空気を感じ、老若男女汗を流して踊っている風景を見て、そして自分たちも一緒に踊り、心と体で阿波踊りを感じました。「踊らにや損」という言葉の意味を、改めて実感。そして二日目は富岡へ移動し、礼拝堂のペンキ塗りや障子の張り替えなどのワークショップを行いました。



台風の影響が心配されましたが、無事にペンキを塗り終え、事故や大きなケガもなく作業を終えることができました。今回のキャンプでは教区の青年のほかにも大阪教区から青年の参加があり、部分参加も含めると二十名以上の方々が共に集まり、親睦を深めることができました。水野真由子(神戸聖ミカエル教会)

全聖公会国際青年大会(前回は一九九七年に開催)が、二〇〇七年九月にイギリスで開催される。日本聖公会からも多数の青年の参加が期待される。